

MCCIR

vol. 21 株式会社メガチップス
2014年3月期のご報告
2013年4月1日～2014年3月31日

2014年3月期のご報告
2013年4月1日～2014年3月31日

Mega Chips

株式会社メガチップス

〒532-0003 大阪市淀川区宮原1丁目1番1号 新大阪阪急ビル
TEL.06-6399-2884(代) FAX.06-6399-2886

<http://www.megachips.co.jp/>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



この報告書は植物油インキを
使用して印刷しています。

郵便はがき

102-8790

220

東京都千代田区一番町17-6 一番町M5ビル5F

株式会社メガチップス
広報課行



差出有効期間
平成26年8月
31日まで
(切手不要)



株主様アンケート

お手数ですが、ハガキにご回答の上、ポストへご投函くださいますようお願いいたします。

株主様のプロフィールをご記入ください。

- 性別: 男性 女性
- 年齢: 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代～
- 職業: 会社員 自営業 公務員 主婦 その他()
- 当社株式保有数:
- 単元未満(100株未満) 100-199株 200-299株
300-399株 400-499株 500-999株 1,000株以上
- 当社株式保有期間:
- 1年未満 1年以上3年未満 3年以上5年未満
5年以上10年未満 10年以上
- 居住地:
- 北海道 東北 関東 中部 近畿 中国 四国
九州・沖縄

※ご記入いただいた情報は、アンケート集計以外の目的には使用いたしません。
※2014年7月31日までにご投函ください。



ハガキをご投函の際は、点線にそって切り離してください。

P2 財務ハイライト

P3 社長が語る業績と戦略

事業構造改革を遂行し、
グローバル企業として
中長期の成長を目指します。

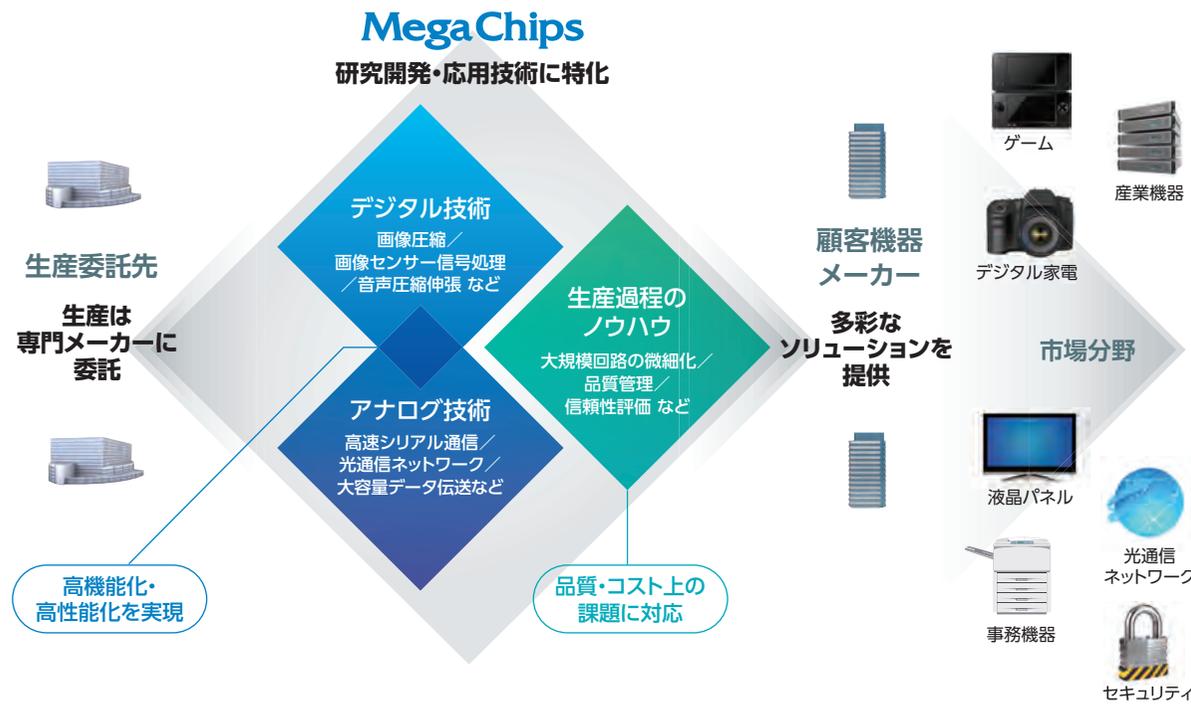
独自のビジネスモデルでグローバルにマーケットを開拓

メガチップスは、画像・音声・通信分野における高い技術力を武器に、独創的なLSIやシステム機器を開発し、国内外に提供しています。ファブレス(工場を持たない)半導体メーカーとして研究開発に特化し、開発・設計技術を磨くのはもちろん、生産過程(製品の微細化、品質

管理、コストダウン)のノウハウも蓄積。製品の企画から供給までお客様をサポートし、製品の高機能・高性能化や品質、コスト、スピード、環境対応など、製品開発・生産上のさまざまな課題にお応えしています。

詳細はホームページへ [メガチップス](#) [検索](#)

メガチップスのビジネスモデル



開発実績

<p>ゲーム機向けLSI</p>	<p>デジタルカメラ向け画像処理LSI</p>	<p>液晶パネル向けLSI</p>	<p>映像監視システム機器</p>
------------------	-------------------------	-------------------	-------------------

株式会社メガチップスおよび連結子会社3月31日に終了した連結会計年度

	2010	2011	2012	2013	2014
会計年度(単位:百万円)					
売上高	38,495	36,259	35,366	53,623	58,469
売上原価	31,833	29,731	28,687	40,568	43,348
営業利益	3,034	3,055	3,033	3,962	4,173
当期純利益	2,140	2,288	2,127	4,044	4,725
会計年度末(単位:百万円)					
総資産	26,612	29,203	29,247	44,075	44,867
純資産	24,439	25,453	24,977	27,595	31,816
1株当たり情報(単位:円)					
当期純利益	88.19	94.64	88.80	170.23	202.40
純資産	1,006.08	1,060.19	1,042.70	1,181.89	1,362.64
期末発行済株式総数(単位:株)	24,353,900	24,038,400	24,038,400	24,038,400	24,038,400

※1 2013年3月期は、川崎マイクロエレクトロニクス(株)(以下、川崎マイクロ)の全発行済株式を取得した際、取得時の時価純資産額が取得価額を上回った額14億6百万円を「負ののれん」として計上しています。

※2 2014年3月期は、川崎マイクロの吸収合併に伴い、承継した税務上の繰越欠損金等で回収可能性の認められるものについて繰延税金資産を計上し、これにより発生した税額調整(利益)23億7千4百万円を「法人税等調整額」に含めて計上しています。



Contents

- | | | |
|--------------|--------------|------------|
| 1 プロフィール | 9 研究開発 | 12 株主様ラウンジ |
| 2 財務ハイライト | 10 決算レポート | |
| 3 社長が語る業績と戦略 | 11 会社情報／役員構成 | |

見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実ではないものは将来に関する見直しおよび計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。

業績の概況

連結売上高と連結当期純利益が過去最高額を達成しました。

2014年3月期の事業環境は、“異次元の金融緩和”による輸出環境の改善や経済対策の効果などにより、景気は緩やかに回復しました。一方、電子機器業界においては、一部の電子部品・デバイスの需要が前年度に比べて増加したものの、民生用電子機器や産業用電子機器の需要が減少し、業界全体の市場は低調に推移しました。

こうしたなか当社は、グローバル事業拡大の一環として、2013年4月1日に川崎マイクロエレクトロニクス

株式会社(以下、川崎マイクロ)と経営統合し、“新生メガチップス”としてスタートを切りました。年間を通じてアメリカ、台湾、中国、インドにおける拠点の体制整備と拡大を積極的に進めるとともに、将来の新たな事業の立ち上げ・育成に取り組みました。

2014年3月期の業績は、デジタルカメラ用LSIの新製品が寄与したこと、液晶パネル向けLSIおよび事務機器向けLSIが堅調に推移したことにより、売上高は584億6千9百万円(前年同期比9.0%増)、営業利益は41億7千3百万円(同5.3%増)、経常利益は42億7千7百万円(同3.8%増)となりました。当期純利益は、上述の経営統合による繰延税金資産の計上による税額調整(利益)が23億7千万円発生したことにより、47

億2千5百万円(同16.9%増)でした。連結売上高および連結当期純利益は過去最高額となりました。

2015年3月期中期経営方針

持続的な成長に向けて新事業育成と海外体制強化を進めます。

当社はこれまで、国内の優良顧客に密着してニーズにきめ細かく応える特定顧客向けLSI(ASIC)事業を事業基盤として成長してきました。しかしながら、継続的な事業拡大と企業価値向上を実現し、ワールドクラスのファブレス企業として中長期的な成長軌道を描いていくためには、海外市場での事業拡大を図る必要があ

ります。その達成に向け、海外市場においても競争力を持つ特定用途向けLSI(ASSP)製品や標準LSI製品事業を立ち上げるとともに、海外のマーケティング、営業、サポート、オペレーション体制を強化します。

すなわち2015年3月期は、ASIC事業に依存した事業構造から、ASSP事業とASIC事業の両輪による成長を図る事業構造への転換点の年と位置づけています。この方針に基づき、2015年3月期中期経営方針として、4つの基本方針を掲げました(下図参照)。

1つめの「成長産業分野においてASSPや標準LSIの新たな事業育成を図る。」と、2つめ「グローバルマーケット進出のため海外拠点の体制強化の投資を行い、中核拠点として育成を図る。」については、



事業構造改革を遂行し、グローバル企業として中長期の成長を目指します。

代表取締役社長 高田 明

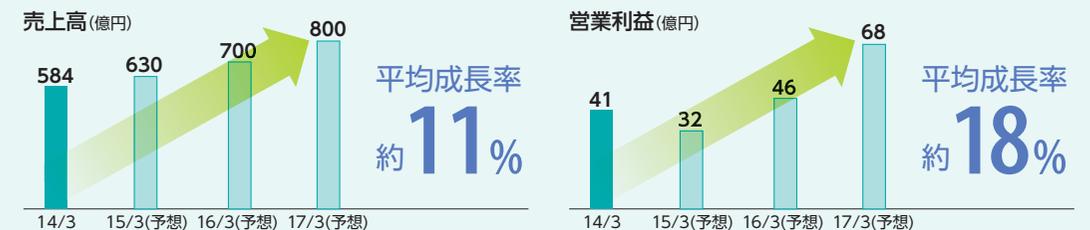
2015年3月期中期経営方針

ASSP事業とASIC事業の両輪による成長を図る事業構造改革を遂行する。

基本方針

- 1 成長産業分野において、ASSP(特定用途向けLSI)や標準LSIの新たな事業育成を図る。
- 2 グローバルマーケット進出のため海外拠点の体制強化の投資を行い、中核拠点として育成を図る。
- 3 ASIC事業基盤を強化する。
- 4 積極的な株主還元を行う。

中期業績目標(2017年3月期の目指す姿)



用語解説



LSI

電子機器の中で計算や映像処理、音声処理、通信処理、メモリーなどの機能を果たす部品のこと。なかでもメガチップスは、多くの機能を1つのLSIに集積した「システムLSI」を得意としています。

今後の市場成長が見込まれる通信、車載、センサー信号処理、医療・ヘルスケア、ロボットの各分野での新たなASSP事業を立ち上げるため積極的にM&A、戦略的提携、新規投資を行ってまいります。これまでも、川崎マイクロとの統合による海外ビジネス拠点の獲得、製品分野およびソリューションの拡大から始まり、米国Vidatronic社への出資による電源IC分野参入での標準LSI獲得、台湾Modiotek社への出資によ

る中国語圏のビジネス構築(マーケティング、営業、サポート、オペレーション)、また、映像分野の事業買収によるアジアおよび欧米マーケットでの新規事業立ち上げなど、事業拡大に向けた施策をスピーディに打ってきました。2015年3月期も、こうした動きをいっそう加速させていく考えです。

また、3つめの「ASIC事業基盤を強化する。」については、**LSI開発とアプリケーションの知識の融合を**

ることで国内ASIC事業の競争力に磨きをかけ、**安定的な利益確保が見込める事務機器・産業機器分野でのシェアアップを目指します。**そのため先行技術開発、戦略的協業、M&Aによるコア技術獲得を推進するとともに、企画・開発から海外のウエハファウンドリ、組立・テストのコントロールまで、国内顧客を一貫してサポートし、安定した高品質サービスを提供します。また、開発・生産コストの効率化を積極的に進め、**オフ**

ショア開発体制や製品ごとに最適なファウンドリ体制の確立にも取り組みます。

これらの方針のもとで事業活動を活性化し、ASIC事業においては国内ナンバー1のASICベンダーを目指します。また、特定分野でナンバー1を狙えるASSP事業を創造するとともに、戦略的な標準LSI製品をラインナップに加え、海外市場に展開していきます。そして、世界における当社の認知度を高め、2017年度に

▶ 新事業の育成

既存の事業基盤であるASIC事業に加えて、成長分野でASSP事業を展開

ASIC (特定顧客向けLSI) とは?

顧客の用途に合わせて開発したオーダーメイドのLSI

- 顧客ごとに異なる開発ニーズに合わせてシステムLSIを企画・開発
- メガチップスでは世界で市場シェアの高い国内顧客と長期的なビジネスを展開

対象分野

ゲーム、デジタル家電、光通信ネットワーク、オフィス機器、セキュリティ、液晶パネル

収益基盤として引き続き競争力を強化

ASSP (特定用途向けLSI) とは?

特定の用途に特化し、複数の顧客に提供する自社ブランドのLSI

- 幅広い顧客が求めるものを見極め、機能を特定したLSIを企画・開発
- 将来ニーズを予測し、独自性の高いLSIを開発。スピーディに販売展開できるかが重要

対象分野

通信、センサー信号処理、医療・ヘルスケア、車載、ロボット、映像

製品ラインナップを拡充し、販売チャネルを海外に拡大

▶ グローバル体制の強化

営業・開発・生産管理の体制整備を進め、戦略的な共同開発もスタート

メガチップスのグローバルネットワーク

ASICデザインセンター、およびアナログIP開発拠点

- インド支店
- 台湾事業所 (台北、台南、新竹、竹南)
- 深圳事業所 (深圳、北京)

欧米地域のビジネス拠点、および先端コア技術開発拠点

- サンノゼ事業所

アジア地域のビジネス拠点

● 台湾事業所 (台北、台南、新竹、竹南)
● 深圳事業所 (深圳、北京)

体制強化に向けた動き

- 2013年4月 川崎マイクロと経営統合
- 9月 台湾に現地法人を設立
- 12月 米国現地法人の増資
- 2014年2月 中国現地法人の北京支店を設立
- 3月 台湾現地法人の増資
- 4月 台湾現地法人が台湾Modiotek社を子会社化

米国Vidatronic社に出資し電源ICを共同開発

電子部品に供給する電源をコントロールする「電源IC」は、スマートフォンなどの端末を小型化、高機能化する上で重要な部品です。この電源IC分野に参入することで、既存事業との相乗効果はもちろん、グローバルな顧客開拓および海外ビジネスの拡大を目指します。

用語解説

Key Word

ファウンドリ
半導体の生産工場のこと。工場を持たず研究開発や設計に特化したメガチップスのようなファブレス企業に対して、開発・設計を行わず製造のみを専門とするのがファウンドリです。

オフショア開発
海外の子会社や事業者に開発を委託すること。コストを抑えられる、時差を有効活用して工期を短縮できるといったメリットが注目を集めています。当社では米国とインドで開発を行っています。

はファブレス半導体メーカーの世界ランキング15位入りを目指します。

2013年ファブレス半導体メーカー売上高ランキング

順位	企業名	本社
1	Qualcomm	アメリカ
2	Broadcom	アメリカ
3	AMD	アメリカ
4	MediaTek	台湾
5	Nvidia	アメリカ
6	Marvell	アメリカ
7	LSI	アメリカ
8	Xilinx	アメリカ
9	Altera	アメリカ
10	Avago	シンガポール
11	Novatek	台湾
12	HiSilicon	中国
13	MStar	台湾
14	Spreadtrum	中国
15	CSR	ヨーロッパ
16	Realtek	台湾
17	Dialog	ヨーロッパ
18	Cirrus Logic	アメリカ
19	Himax	台湾
20	Silicon Labs	アメリカ
21	メガチップス	日本
22	Semtech	アメリカ
23	PMC-Sierra	アメリカ
24	IDT	アメリカ
25	Microsemi	アメリカ

出典:IC Insights

日本企業で唯一ランクイン!

21位

2015年3月期の業績見通し

ASSP事業への積極的な投資に伴い増収減益を見込んでいます。

当社を取り巻く市場環境は、2015年3月期も依然として厳しい状況が予想されますが、中期経営方針に沿ってさらなる成長を目指します。通期の連結業績予想は、売上高630億円(前年同期比7.7%増)、営業利益32億円(同23.3%減)、経常利益31億円(同27.5%減)、当期純利益17億円(同64.0%減)を見込んでいます。

売上高は、必要な投資原資を生み出すべく既存事業のさらなる拡大にも注力し、増収を予想しています。一方、利益面での減益予想は、将来に向けたASSP事業立ち上げのための積極的な投資を決断したことによるものです。主な新規投資の内容は、映像分野における事業買収に伴うアジア・欧米マーケットへの新製品開発投資およびビジネス構築投資、またモバイル、車載、ヘルスケア分野での新規事業に関する投資、Vidatronic社への出資を含む電源IC分野での新規事業に関する投資、システムLSI開発力強化のための投資です。ご理解のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2015年3月期 連結業績予想 (単位:百万円)

	2015年3月期 予想	2014年3月期 実績	増減率
売上高	63,000	58,469	7.7%
営業利益	3,200	4,173	△23.3%
経常利益	3,100	4,277	△27.5%
当期純利益	1,700	4,725	△64.0%
1株当たり 当期純利益(円)	72.81	202.4	△64.0%

株主様への還元について

経営上の重要施策と位置づけ株主様への利益還元に努めます。

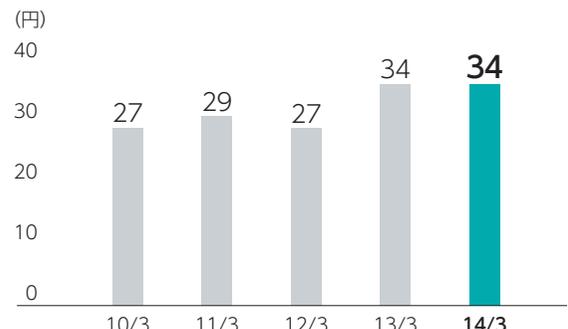
最後に、中期経営方針の4つめにも掲げておりますとおり、当社は、株主の皆様への利益還元を経営上の重要な施策と位置づけています。株主配当については、会計・決算上の特殊要因を除き、「配当性向30%程度」または「連結純資産配当率(DOE)2%程度」のいずれか高い方を基本として、連結業績、財務状況、投資計画などを考慮して決定し、年1回実施する方針です。

この配当方針に基づき、2014年3月期は、連結当期純利益から「会計・決算上の特殊要因」である川崎マイクロとの統合に伴い発生した繰延税金資産の計上による税額調整(利益)23億7千万円を減算し、その30%程度を配当金総額と決定しました。**1株当たりの配当は、前期に引き続き年間34円とさせていただきます。**

2015年3月期の1株当たりの年間配当は未定ですが、方針に基づいて実施する予定です。決定しましたら、リリースを行うとともにホームページ上でお知らせします。

また、自己株式の市場からの買付け(自己株式取得)

1株当たり配当金推移



については、2014年5月に1,000,000株の買付けを実施しています。なお、2014年3月期の連結純利益から会計・決算上の特殊要因を除いた金額に対して、2014年3月期の配当金総額と今回の自己株式取得総額の合計は、総還元率で見ると約90%となります。

今後も、配当方針に基づき、中期的な成長性、事業環境、市場環境、投資計画などを総合的に勘案し、機動的に自己株式取得を適宜実施することで、株式価値と資本効率の向上に努めます。

株主の皆様へ

グループ一丸となって事業構造改革を推進してまいります。

ネットワーク社会の進展によってライフスタイルが変化を遂げるなか、私たちはLSIとアプリケーションの知識を有機的に融合させることで従来にない新しい価値を創造し、大手企業では実現できない独創性のあるソリューションを顧客に提供することによって、人々が幸せを実感できる豊かな未来社会づくりに貢献したいと考えています。

この将来像を現実のものとするために、2015年3月期に掲げた事業構造改革をグループ全社員が一丸となって遂行してまいります。

株主の皆様には、引き続きご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

高田 明

用語解説



自己株式の市場からの買付け(自己株式取得)

株式市場から自社の株式を買い戻すこと。市場に出回る株式総数の減少によって1株当たり利益の増加につながることから、メガチップスでは、株主様への利益還元策の1つとして重視しています。

画像・音声・通信分野の独自技術をコアに 独創的な製品を創出しています

メガチップスは、独自のコア技術を活用して顧客ニーズに応えるとともに、他社製品との差別化を実現する応用技術の研究開発に取り組んでいます。また、こうした研究開発による優位性と独自性を確保するために、知的財産の権利化を推進しています。

2014年3月期 研究開発の主な成果

基礎技術の研究開発

- H.264アルゴリズム他の動画コーデック
- カメラ用画像処理アルゴリズム
- 車載用画像認識アルゴリズム

LSI製品の開発

- 携帯型ゲーム機向けゲームソフトウェア格納用LSI
- デジタルカメラ向けシステムLSI用IP
- デジタルカメラ用LSI
- 監視カメラ、画像転送用LSI
- 液晶パネル向けタイミング・コントローラLSI **PICK UP**
- 光通信向けIP・LSI
- 光電変換IP・LSI
- ホームネットワーク向けアナログフロントエンドLSI
- 920MHz帯無線LSI
- 電源制御用LDレギュレータ

その他製品の開発

- フルデジタル映像記録・伝送システム
- セキュリティ用カメラシステム

知的財産戦略

ファブレスメーカーであるメガチップスにとっては、研究開発のアイデアやノウハウなどの知的財産が事業競争力の源であり、知的財産を権利として保護することが競争力や成長力の向上につながります。

2014年3月期は、画像認識技術（車載カメラ向け、監視カメラ向け）、セキュリティ向上技術、センサー関連技術、画像処理技術（監視カメラ、液晶パネル）、光通信技術、液晶パネル向けタイミング・コントローラ関連技術、光通信・ホームネットワーク向け高速通信I/F技術などについて、特許出願を実施しました。

研究開発方針

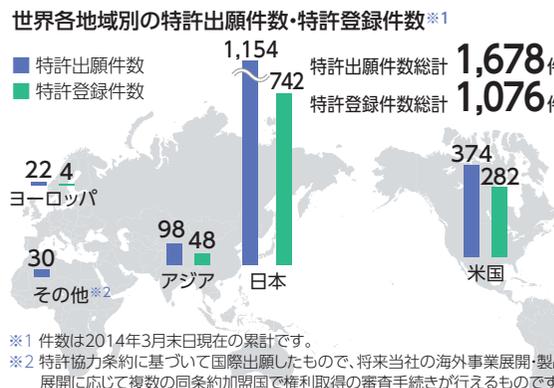
画像・音声・通信分野のシステムLSI、システム製品および当該製品を利用したソリューションを提供すること

PICK UP

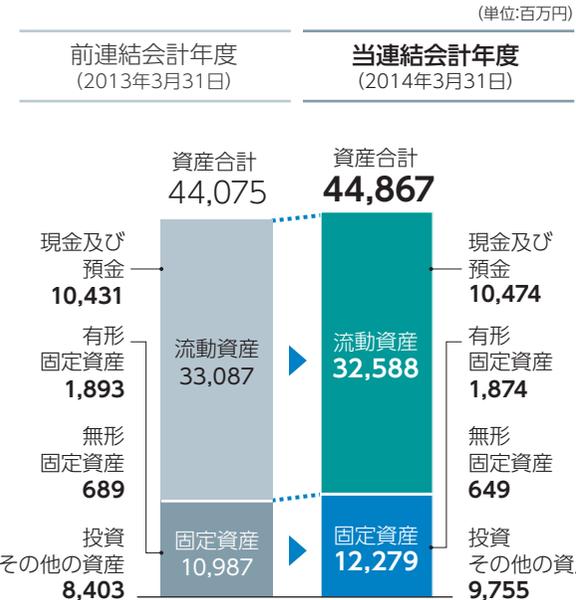
モバイルコンピューティング向けをはじめ次世代4Kテレビ向けの製品を開発

タブレットPCなどのモバイル端末向けLSI用に、消費電力を削減する技術と、液晶パネルの特性に応じて画質および消費電力を最適化する技術を開発しました。現在、これらの新技術を搭載した製品も開発中です。

また、フルハイビジョンの4倍という緻密で滑らかな映像を実現する次世代の液晶パネル「4Kパネル」向けのLSIを開発し、量産を開始しました。

連結貸借対照表



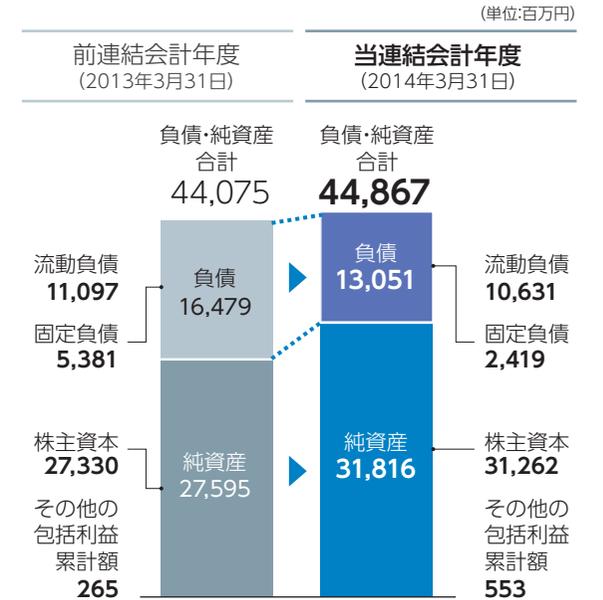
損益計算書および包括利益計算書

(単位:百万円)

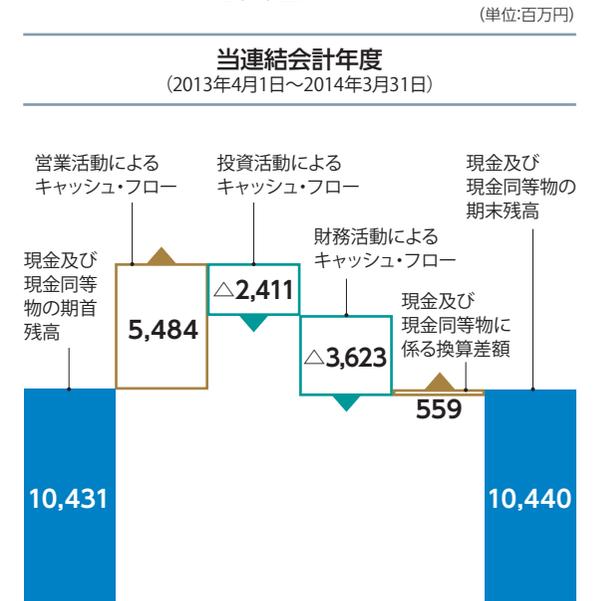
科目	前連結会計年度 (2013年3月31日)	当連結会計年度 (2014年3月31日)
売上高	53,623	58,469 Point 1
売上総利益	13,054	15,120
販売費及び一般管理費	9,092	10,947
営業利益	3,962	4,173 Point 2
営業外収益	231	184
営業外費用	73	80
経常利益	4,120	4,277
特別利益	1,406	588
特別損失	90	451
税金等調整前当期純利益	5,436	4,413
法人税等	1,391	△ 312 Point 3
当期純利益	4,044	4,725
その他の包括利益	164	288
包括利益	4,208	5,014
(内訳)親会社株主に係る包括利益	4,208	5,014

Point 1 Point 2
売上高・営業利益

デジタルカメラ用LSIの新製品が寄与したこと、液晶パネル向けLSIおよび事務機器向けLSIが堅調に推移したことなどにより増収増益となりました。



キャッシュ・フロー計算書



Point 3
法人税等調整額

川崎マイクロの吸収合併に伴い、承継した税務上の繰越欠損金等による繰延税金資産を計上しました。これにより発生した税額調整(利益)2,374百万円を計上しています。



会社情報/役員構成 (2014年6月20日現在)
Corporate Data / Directors and Auditors

会社商号	株式会社メガチップス	所在地	本社	〒532-0003 大阪市淀川区宮原1丁目1番1号 新大阪阪急ビル TEL. 06-6399-2884 (代表)
英文商号	MegaChips Corporation			
設立	1990年4月4日			
上場	東証1部(証券コード6875)	東京事業所	〒102-0082 東京都千代田区一番町17番地6 一番町MSビル	
資本金	4,840百万円	幕張事業所	〒261-8501 千葉県美浜区中瀬1丁目3番地	
従業員数	739名(2014年3月31日現在 連結)	海外拠点	台湾、アメリカ、中国、インド	
事業内容	システムLSI、自社システムLSIを使った電子部品およびシステム製品の設計・開発・製造(外部委託)・販売			

役員



代表取締役社長
高田 明
(たかた あきら)



取締役副社長
松岡 茂樹
(まつおか しげき)



専務取締役
藤井 理之
(ふじい まさゆき)



取締役
肥川 哲士
(ひかわ てつお)



取締役
佐々木 元
(ささき げん)



取締役
吉清 恭一
(きよせい きょういち)



社外取締役
赤星 慶一郎
(あかほし けいいちろう)



社外取締役
游 敦行
(いろう だんしん)



常勤監査役
角 正
(すみ ただし)



社外監査役
中西 藤和
(なかにし ひさかず)



社外監査役
小原 望
(おはらの のぞむ)



社外監査役
北野 敬一
(きたの けいいち)

※ 取締役 赤星 慶一郎氏および游 敦行氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
※ 監査役 中西 藤和氏、小原 望氏および北野 敬一氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

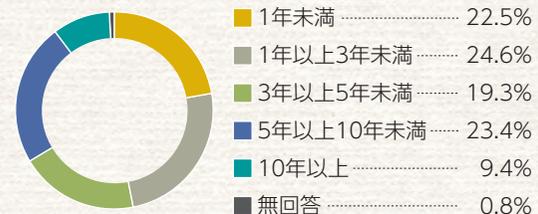
Shareholders Lounge 株主様ラウンジ



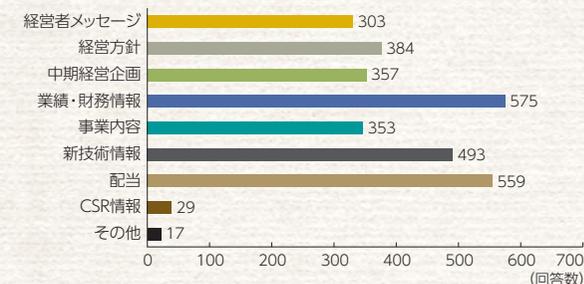
株主様へのアンケート結果のご報告

「MCCIR vol.20」誌上のアンケートにおいて、株主の皆様からご回答いただきました貴重なご意見は、今後の経営およびIR活動に活かしてまいります。

Q1 当社株式の保有期間は?

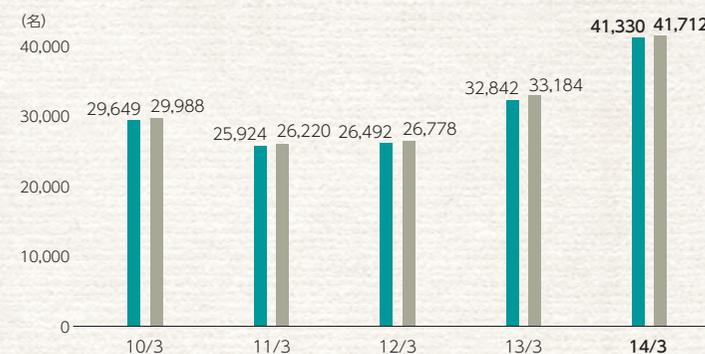


Q2 今後、詳しく掲載を行って欲しい情報は何でしょうか。

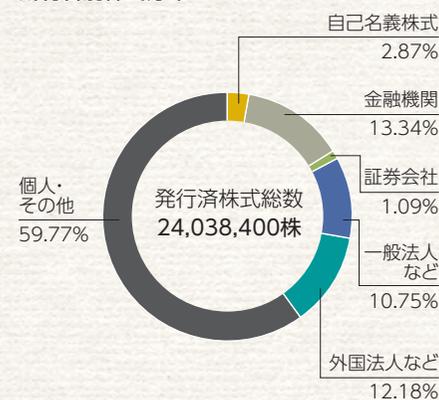


当社の株主構成

株主数推移



所有者別株式分布



株主様からの声

株主通信に対するご意見

- “図やグラフが多用されていて非常にわかりやすい。”
- “海外地域(特にアジア)での事業展開に魅力を感じた。”
- “中長期な戦略を明確に説明してほしい。”
- “今後の技術開発や新規事業、将来像をアピールしてほしい。”
- “素人でもわかる簡易な技術情報を載せてほしい。”

その他ご意見

- “株主優待を楽しみにしています。今後もずっと続けてほしい。”
- “商品の重要性が高いにもかかわらず会社の認知度は低いように思う。”
- “株価上昇の対策をお願いしたい。”

Topics

「よくわかる!メガチップス」のご紹介

当社ホームページ内に「よくわかる!メガチップス」という新コーナーを設置しました。イラストや図を使って、メガチップスの事業や製品、特長をわかりやすくご紹介しています。スマートフォンにも対応していますのでぜひご覧ください。

<http://www.megachips.co.jp/irinfo/personal/review/index.html>



Webサイト画面

スマートフォン画面

2014年度 株主優待について



株式会社高島屋カタログ



「マリオパーティ アイランドツアー」*
©2013-2014 Nintendo

「とびだせ どうぶつの森」*
©2012 Nintendo

メガチップスでは、株主の皆様の日頃のご支援に対して感謝の意を表するため、株主優待制度を設けています。本年も2014年3月31日現在で当社株式を100株(1単元)以上ご所有の株主様に心ばかりの品を贈呈させていただきます。本年度は、株式会社高島屋の提供する商品カタログの中から、希望される商品1点(3,000円相当)、または任天堂株式会社製ニンテンドー3DS™専用ソフトの中から1点をお届けします。なお、株主様への株主優待カタログは6月上旬に発送しています。

*Wii U・ニンテンドー3DS・ニンテンドーDSは任天堂の登録商標または商標です。

ご注意▶ 株主優待は、毎年3月31日現在の株主名簿に記録された、100株(1単元)以上のご所有の株主様を対象に行っています。ご転勤などでご住所を変更される場合は、証券会社等口座開設先に必ず住所変更届をご提出ください。株主優待に関する当社からのご案内書が届かない場合が少なからず発生しています。なお、株主優待品につきましては、申込受付期日を過ぎますとお受けできなくなりますので、ご注意ください。

今後の活動予定(IRカレンダー)

2014

7月
2014年3月期
アニュアルレポート(英文版)発行

8月1日
2015年3月期
第1四半期 決算発表

10月31日
2015年3月期
第2四半期 決算発表

2015

1月30日
2015年3月期
第3四半期 決算発表

株主メモ

決算日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
配当基準日	毎年3月31日 この他、取締役会の決議により、予め公告して基準日を定めることができます。
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 お問合せ先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話：0120-094-777(通話料無料) 受付時間：土・日・祝祭日等を除く平日9:00~17:00
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://kmasterplus.pronexus.co.jp/main/corp/6/8/6875/index.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっています。座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんので、ご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関の三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いします。

IR活動の充実に向け
株主様アンケートにご協力ください

(2014年7月31日
まで受付)

- Q1 株主通信「MCCIR」vol.21の内容で、興味を持たれた記事・コーナーをお選びください。(複数回答可)
- p1プロフィール p2財務ハイライト
 - p3-8社長が語る業績と戦略
 - p9研究開発 p10決算レポート
 - p11会社情報/役員構成
 - 株主様ラウンジ(株主様へのアンケート結果のご報告)
 - 株主様ラウンジ(株主様からの声)
 - 株主様ラウンジ(Topics)
 - 株主様ラウンジ(2014年度株主優待について)
 - 株主様ラウンジ(IRカレンダー・株主メモ)
- Q2. 今後、詳しく掲載を行って欲しい情報は何か。(複数回答可)
- 経営者メッセージ 経営方針 中期経営計画
 - 業績・財務情報 事業内容 新技術情報 配当
 - CSR情報 その他()
- Q3. 今後強化して欲しいIR活動・ツールは何か。(複数回答可)
- 当社ウェブサイト MCCIR(株主通信)
 - 個人投資家説明会 IRフェアへの出席 株主総会
 - IR雑誌や新聞への掲載・広告出稿
 - その他()
- Q4. 当社ホームページをご覧になったことはありますか?
 ある ない
- Q5. 株主通信「MCCIR」のご感想またはIR活動へのご要望をお聞かせください。
- アンケートにご協力いただきありがとうございました。